

令和3年第1回市議会定例会 一般質問通告概要一覧

日 時	人 数
令和3年2月19日（金）午前10時～	6人（1番から6番まで）
令和3年2月22日（月）午前10時～	8人（7番から14番まで）

質問 順位	議 番	議 席 号	会 派 名	通 告 者 氏 名	抽 選 番 号	種 別
1番		1	日 本 共 産 党	遠 藤 秋 雄	1	一問一答
2番		13	公 明 党	根 本 朝 栄	2	一問一答
3番		8	日 本 共 産 党	佐 藤 恵 子	3	一問一答
4番		17	新 世 紀 ク ラ ブ	竹 谷 英 昭	4	一問一答
5番		2	日 本 共 産 党	中 田 定 行	5	一問一答
6番		9	日 本 共 産 党	戸 津 川 晴 美	6	一問一答
7番		11	公 明 党	阿 部 正 幸	7	一問一答
8番		12	公 明 党	齋 藤 裕 子	8	一問一答
9番		10	自 由 民 主 党	吉 田 瑞 生	9	一問一答
10番		3	自 由 民 主 党	佐 藤 雅 博	10	一問一答
11番		7	無 所 属 の 会	江 口 正 夫	12	一問一答
12番		16	市 民 ク ラ ブ	昌 浦 泰 己	15	一問一答
13番		14	自 由 民 主 党	雨 森 修 一	17	総括質問
14番		4	自 由 民 主 党	鈴 木 新 津 男	18	一問一答

計 14 名
 総括質問方式： 1 名
 一問一答方式： 13 名

質問順 1番	受付月日	2. 9	通告者	1番	遠藤秋雄	
			発言時間	30分	種別	一問一答
<p>1. 市内循環バス西部線の留ヶ谷地区路線新設について</p> <p>1月19日、留ヶ谷地区代表者より626筆の署名と共に「市民バスの空白地をなくして」と、市長に申し入れを行いました。</p> <p>(1) 市長は、この住民の声をどのように聞きましたかお伺いをします。</p> <p>(2) 西部線の運行が、道路運送法第21条から第4条に条文が変わったことで、運営運行の主体者は乗合バス事業者に移行したものと理解しています。そのことで、行政の関わり方に補助金の出し方も含めて、どのような変化があるのでしょうか。</p> <p>(3) 運営運行の主体者が乗合バス事業者に移行したことで、今回の留ヶ谷地区の要望にあるような「バスルートの変更や停留所新設など」の窓口はどこが担うのでしょうか。</p> <p>(4) 本市の「生活交通ネットワーク計画」の基本目標の一つである「鉄道駅を中心とした生活交通」は、今後の西部線の利用者拡大にとっても、路線継続にとっても合理的と考えますがいかがでしょうか。</p> <p>2. 多賀城市非核平和都市宣言について</p> <p>2021年1月22日、史上初めて核兵器を「非人道的で違法」とする核兵器禁止条約の国際法が誕生しました。禁止条約の前文では「核兵器が二度と使用されない唯一の方法が完全廃絶」と指摘し、第1条で「核兵器の開発、実験、製造、備蓄、移譲、使用、使用の威嚇の禁止」を明記しています。条約発効で国連の事務総長は「被爆者自身の体験により『核兵器と人類は共存できない悪の兵器だ』と、告発し続けたことが国際政治を動かした」との声明を出しました。</p> <p>国内運動でも「被爆者の命あるうちに核兵器廃絶を」の世論を高めるために、「ヒバクシャ国際署名」をはじめ自治体による平和宣言や本市も協賛し毎年開催されている国民平和大行進と原水爆禁止世界大会など、草の根の反核平和の取り組みがありました。</p> <p>核兵器廃絶運動の中、本市の「非核平和都市宣言」が2010年12月15日に、市当局と議会双方で作成され全会一致で決議されました。その後決議は、3カ月後に発生した「3.11東日本大震災」の復興・支援が本市の柱となり、今日に至っています。そこで、本市の「非核平和都市宣言」の今後の取り組みについてお伺いします。</p> <p>(1) 「宣言」を生かす取り組みとして、核兵器廃絶を求める世論と平和教育を進めるために、本市も加盟する「平和首長会議」（2011年1月加盟、会長：広島市）が行っている「被爆樹木二世を世界に」届ける運動の取り組みはいかがでしょうか。この運動は、広島や長崎で被爆した樹木の種や苗木を育てながら平和への思いを共有する運動です。</p> <p>(2) 本市庁舎外壁への「宣言」看板を設置する取り組みはいかがでしょうか。</p>						

- (3) 被爆体験者(県内の「原爆被害者の会」)による講話会や親子で考える平和の紙芝居・上映会の取り組みはいかがでしょうか。
- (4) 庁舎出入り口での「原爆パネル展や平和七夕展(夏場)」の取り組みはいかがでしょうか。

質問順	受付月日	2. 8	通告者	13番	根本朝栄
2番			発言時間	30分	種別 一問一答
<p>1. 市営住宅保証人の撤廃について</p> <p>本市では、市営住宅の入居条件の一つとして保証人が必要となっておりますが、国土交通省は、平成30年3月の通知で、保証人の確保ができず入居できないといった事態を回避するため、保証人規定の削除を自治体に促しています。このことについては、令和2年第三回定例会の一般質問で齋藤裕子議員も取り上げていますが、その後の取り組みについて伺います。</p> <p>2. 塩釜街道踏切の歩道設置について</p> <p>市道新田浮島線と東北本線が交差する「塩釜街道踏切」は、歩道が設置されていないため車が往来するときは、歩行者は踏切手前で待っていなければならない危険な交差点となっております。歩行者が安全に踏切を通行できるよう歩道の設置についてJRと協議してはいかがでしょうか。</p> <p>3. ゴミ出し支援事業について</p> <p>高齢者や障がい者の方で、ゴミを出すのが大変困難な方のために「ゴミ出し支援事業」の早期実施について伺います。</p> <p>4. 市長の選挙公約について</p> <p>深谷市長は昨年の市長選挙に際し、多賀城のまちづくりに思いを馳せ、多岐にわたる公約を掲げ、多くの支持を集めご当選されました。公約を実現するため努力することは当然と思いますが、内容によっては多額の財源を伴うこともあることから、1期4年でできるものと、近い将来を見通して道筋をつけるものがあると考えます。</p> <p>このことを踏まえ、次の3点について伺います。</p> <p>(1) 子ども医療費の所得制限撤廃について</p> <p>子ども医療費の本市の所得制限の現状は、454万円の所得以下の方が対象で全体の73.6%が対象となっておりますが、646万円に緩和すると94%の方が対象となります。一気に撤廃するのではなく、段階的に緩和することについて見解を伺います。</p> <p>(2) バス運賃の無料化について</p> <p>65歳以上の方の東部バスと西部バスの運賃を無料化すると言われていますが、免許証の返納者は1年間無料となっていることもあり、まずは75歳以上の方を無料化し、段階的に無料化を図ってはいかがでしょうか。</p>					

(3) 陸前山王駅のバリアフリー化について

陸前山王駅のバリアフリー化については、私も山王地区住民の方から多くの要望が寄せられており、是非とも前に進めていただきたいと思います。今後の取り組みについて伺います。

質問順	受付月日	2. 8	通告者	8番	佐藤 恵子
3番			発言時間	30分	種別 一問一答
1. コロナ禍のなか、4月からの学校給食費引き上げについて 今春4月から市内の学校給食費を小学校で14%（児童一人年6,090円）、中学校で17%（生徒一人年8,200円）引き上げられ、小2、中1の3人の子どもを持つ家庭では年間2万円を超す負担増になります。コロナ禍のなかで、子育て世代は収入減や生活費増で暮らしが大変。しかも、進級、進学等で新たな支出が増えるこの時期に、なぜ今、給食費をあげるのでしょうか。市長がかかげる子育て応援のまちづくりに反します。また、今回の値上げについて保護者からの意見を十分聴取していません。全国にはコロナ対策で給食費を一年無料にするという自治体もあり、完全無償化にふみだす自治体もふえています。本市としてもこうした経過をふまえ、4月からの給食費の値上げは白紙に戻し、学校給食の栄養不足の解消の取り組みは、市の責任でおこなうよう強く求めます。					

質問順	受付月日	2. 9	通告者	17番	竹谷 英昭
4番			発言時間	30分	種別 一問一答
1. 施政方針から (1) 市財政の改善のための課題を解決して行くため ① 事業の棚卸しによる事業の意図の見直しと効率化の具体的な活動内容について ② 選択と集中による予算の重点化について、令和3年度予算に導入されているのか ③ 新たな財源の創出の具体的内容について ④ 官民連携による民のチカラの活用についての具体的内容 (2) 市制施行50周年記念行事に、花いっぱい運動を取り入れて、この事業を契機に通年事業を展開することについて (以前、市行事として花と緑のふれあい祭りがありましたがその復活を)					

質問順 5番	受付月日	2. 9	通告者	2番	中田定行	
			発言時間	30分	種別	一問一答
<p>1. 国保税の減免について</p> <p>国保税の子どもの均等割りの減免が、2022年度から国の制度として導入されることになりました。</p> <p>これまで私たちが「人頭税のような課税は止めるべきだ」、「均等割りは少子化対策に逆行する」と指摘してきたことを、国が認めた形になりました。未就学児の均等割りの5割を軽減するというもので、負担割合は国が1/2、県と市が1/4ずつで、地方負担分は交付税措置されるものです。22年度の一人当たりの軽減額は年間13,000円と国では試算しています。</p> <p>これまで国保税の均等割りを減免・廃止すべきだと主張してきた日本共産党多賀城市議団としては、今回の措置を一步前進だと評価しますが、国の施策にさらに上積みをして市独自に減免幅を広げるべきだと考えますが、市長の所見を伺います。</p> <p>2. 清水沢多賀城線への信号機・横断歩道の設置について</p> <p>国道4号線から志引団地まで、復興道路として整備されていた都市計画道路「清水沢多賀城線」が1月26日に開通しました。1日11,300台の通過車両とされる道路であり、志引団地側の交差点には信号機が必要だと、町内会や議会からも意見が出されていたところです。市も信号機が必要だと認めていましたが、公安委員会は「様子を見てから」と設置を見送りました。</p> <p>しかし、開通式の翌日の朝に軽自動車どおしの衝突事故が発生しました。幸い人身事故には至りませんでした。本当に残念なことです。</p> <p>この交差点には横断歩道もありませんので、大きな事故が発生する前に、一刻も早く信号機と横断歩道を設置すべきだと考えますが、市長の所見を伺います。</p>						

質問順 6番	受付月日	2. 10	通告者	9番	戸津川 晴美
			発言時間	30分	種別
<p>1. 新型コロナワクチン接種体制</p> <p>(1) ワクチン接種には、副反応などの不安から、接種をためらう市民もいる。副反応についてはもちろん、その有効性や安全性についても十分な情報発信が待たれている。どのような形で情報は発信されるのか伺う。</p> <p>(2) 今のところ集団接種が予定されているが、個別接種やドライブスルー等も検討されてはいかがか。</p> <p>(3) 職員体制は兼務だけでなく、専従も必要ではないか。</p> <p>2. 新型コロナ感染防止と支援策</p> <p>(1) 市内の感染状況について、ホームページ以外の情報発信を望む声が多い。その方法について検討されたい。いかがか。</p> <p>(2) 全国的に高齢者施設でのクラスター発生件数が急増し、その防止策が求められている。介護職員は、日々、自分が感染源になるのではないかという不安の中で、介護にあっている。体の接触はさけられず、もし高齢者に感染すれば重症化のリスクも高く、精神的な負担も大きい。せめて職員だけでも定期的に検査し、安心して介護できる状況にすべきと考えるが、いかがか。</p> <p>(3) 昨年に引き続き、経済的に困窮する市民は多い。一人親世帯等への子育て支援策が必要ではないか。また、非正規やアルバイト等の失職者にも何らかの支援が必要と考えるが、いかがか。</p>					

質問順 7番	受付月日	2. 8	通告者	11番	阿部 正幸
			発言時間	30分	種別
<p>1. 信号機の設置について</p> <p>復興事業の一つである緊急避難路・物流路「清水沢多賀城線」が令和3年1月26日開通しました。公明党多賀城市議団では令和2年12月18日に「市道志引団地13号線」との交差点に信号機の設置を、深谷市長と宮城県警察本部長へ要望しました。この交差点は、開通後、大変危険な交差点となっております。交通事故防止及び地域住民の安心・安全を図るため、早期に信号機の設置を強力に宮城県警察へ働きかけていただきたい。</p> <p>2. 多賀城市福祉タクシー利用助成事業について</p> <p>重度の障害等がある方がタクシーを利用する際にタクシーの利用料の一部を助成する多賀城市タクシー利用助成事業があります。助成内容は、月2400円で600円の利用券が4枚あり、利用券は1乗車につき1枚のみ使用でき、600円を超えた場合は差額分を支払い、利用券に係る釣銭の支払いは出来ないとなっております。</p>					

本市は1乗車につき1枚のみ使用できる条件がありますが、1度に利用できる枚数に制限を設けていない自治体もあります。実施要綱の第1条に「日常生活の利便及び社会活動の範囲の拡大を図り、もって福祉の向上に資することを目的とする」とあります。

本市でも日常生活の利便及び社会活動の範囲の拡大を図れるよう、1乗車につき利用できる枚数の制限を設けないでいただきたい。

3. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

(1) 市内小中学校では、手洗い・うがいと呼び掛けておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、小中学校の水道蛇口を非接触型の自動水栓化し、衛生的な学習環境を強化していただきたい。

(2) 新型コロナウイルス感染症の拡大により、著しく売上が減少し、事業経営に大きな支障が生じている事業所が多くあります。

これまでの第4弾の経済対策支援の取り組みは評価致します。今後も第5弾の経済対策支援として実施していただきたい。

質問順	受付月日	2. 8	通告者	12番	齋藤裕子
8番			発言時間	30分	種別
					一問一答
<p>1. 新型コロナウイルスワクチン接種について</p> <p>本市では、新型コロナウイルスワクチン接種対策室を設置し、準備に取り組まれておりますが、感染拡大防止に向けて迅速かつ丁寧な対応で、的確に接種事業を進めなければならないと思います。そこで、接種体制の取り組み状況について伺います。</p> <p>2. 子どもの貧困対策強化について</p> <p>新型コロナウイルス感染が拡大し、経済への影響が懸念される中、生活に困窮される方々への支援は、更に重要性が高まっております。</p> <p>2019年の国民生活基礎調査によると、こどもの貧困率は13.5%で、7人に1人が貧困状態に、ひとり親世帯は、48.1%にあると言われております。経済状況の悪化により、困難を抱える家庭が増えている傾向にあり、DV、虐待のリスクも高まり、自殺や、事故につながる恐れも想定され、更なる支援が必要と考えることから、以下の点についてお聞きいたします。</p> <p>(1) 支援を必要とする家庭の子どもたちに支援を確実に届けるためには、教育、福祉の部門、地域の様々な関係機関との連携、協力がとても重要と考えます。 本市のこどもの貧困対策の取り組みについて</p> <p>(2) こども食堂、宅食の活動を行っているNPO法人や、民間の団体等の協力を得て、食事の提供や、学習、生活支援などを訪問型で行う、見守り強化支援について</p>					

- (3) こども食堂は、困窮する子ども達の、孤食や、栄養面、学習支援、地域の居場所としての役割を果たす重要な取り組みと考えます。コロナ禍において、活動の制限や、中止状態や、本当に支援を届けたい所に届かない現状もおきております。立ち上げ、活動に対する補助制度の創設や、情報提供、PRなどの支援について。また、フードバンク、フードドライブ、フードパントリー事業の推進について
- (4) 非課税世帯などの困窮家庭に対する「ファミリーサポート事業」や「一時預かり、病児、病後児保育」の利用料の免除について

質問順 9番	受付月日	2. 8	通告者	10番	吉田 瑞生
			発言時間	30分	種別
<p>1. 「東日本大震災の記録—自治法派遣職員の手記—」を自治法派遣職員のメールとメッセージとして発行し、支援の“敬意と感謝の思い”を示すことについて</p> <p>多賀城市は、「東日本大震災の記録」を平成25年4月1日に発行しました。この記録は、多賀城市が経験した震災の記録を未来に引継ぐ貴重な財産として記し作成したものですから、自治法派遣職員の記録は復旧・復興応援の写真掲載1ページが納められたものにとどまっています。</p> <p>この10年間における、年度毎の自治法派遣職員受入れ人数は、平成23年度3団体4人。平成24年度13団体36人。平成25年度31団体59人。平成26年度28団体54人。平成27年度24団体41人。平成28年度18団体34人。平成29年度13団体26人。平成30年度11団体19人。平成31年度8団体9人。令和2年度5団体5人。合計延287人で、その範囲は青森県から沖縄県に及んでいます。</p> <p>これほど全国的規模で実施された応援態勢の例はこれまでにありませんでしたので、派遣職員諸氏の手記を記録することは、意義のあるふさわしい大切な事業でしょう。</p> <p>「自治法派遣職員の手記」は、“たがじょう見聞憶”事業の教訓や知見を地域の未来とする資料に活用することにも役立ちます。</p> <p>敬意と感謝の関係性を深め絆を築き、震災の教訓を語り継ぐために、本市の復旧・復興の事業に従事された派遣職員の方々に、“思い出や経験と体験や教訓と学びや伝承”の原稿をお寄せ願ひ、「東日本大震災の記録—自治法派遣職員の手記—」を発行してはどうか。</p>					

質問順	受付月日	2. 9	通告者	3番	佐藤雅博
10番			発言時間	30分	種別
					一問一答
<p>1. 市政方針に関して</p> <p>(1) 市長の市政方針には公約に掲げた政策が見受けられる。財政状況厳しい中結果的に一般会計においては増額となった。先行き不透明な年だと思いますが公約は実現可能でしょうか。</p> <p>(2) 令和3年度は第六次総合計画に沿った行財政運営と公約達成に向けた市政運営、理に適った臨機応変な対応を目指すものと思いますが、市長が伝えたい、成し遂げたい事について伺う。</p> <p>2. 第六次総合計画に関して</p> <p>行政改革が求められている現状において、公共施設管理のあり方を進め、これからの社会に即した次世代に過度な負担を残さない政策の推進を図らなければならない。この課題に取り組む具体的内容について伺う。</p> <p>3. 本市独自の緊急経済対策に関して</p> <p>市民生活を守る必要不可欠な支援事業には惜しまず財政投入をしていただきたい。第5弾の対策として、市内で業態変換を考えている事業者にチャレンジ出来る支援策と小中学生の子供を持つ子育て世代への更なる支援策について伺う。</p> <p>4. 組織・人事マネジメントの推進に関して</p> <p>(1) 組織・人事マネジメント改革の最終目的は市民の期待に備えるためであると思う。限られた職員と財源にて最良の状態を作り出す事が望まれますが、どのように考えますか。</p> <p>(2) 職員の方々は、日々市民から多岐にわたる相談、要望、提案等を受けています。その対応については千差万別と感じています。職員の方々は市の考えや、目指す方向性を確認した上で、それを市民に対し丁寧に伝え、理解してもらうことが一番大切だと思いますがいかがですか。</p> <p>(3) 庁内は風通し良くコミュニケーション豊かな状態で行政機能がスムーズに発揮される状況ですか。</p> <p>(4) 前例、先例に捉われないチャレンジ出来る、最良の組織・人事マネジメントの推進を図って頂きたい。未来を託されている市長の所見を伺う。</p> <p>5. 多賀城跡の活用とまちづくりについて</p> <p>(1) 多賀城跡の活用、まちづくり及びハード面、ソフト面の融合が多賀城全体へと事業効果を生み出し続けると思うが当局はどのように捉えていますか。</p> <p>(2) これからも続く多賀城跡の活用とまちづくりの推進について市長の見解を伺う。</p>					

質問順	受付月日	2. 8	通告者	7番	江口正夫
11番			発言時間	30分	種別 一問一答
<p>1. コロナワクチン接種体制の準備状況について</p> <p>コロナウイルスの感染が減少傾向にある中、ワクチン接種の開始が迫っています。本市は1月20日に、「新型コロナウイルスワクチン接種対策室」を設置し、ワクチン接種の準備を進めています。現時点では、ワクチンの安定供給が行われるのか、それにより、接種開始時期・スケジュールなどに影響があるのかの、課題に不確定要素があります。できるだけ多くの市民がワクチン接種を安心・安全に受けられることに最大限の配慮を行い、接種実施の準備に万全を期すよう、その概要について、以下質問いたします。</p> <p>接種体制等について</p> <p>(1) 本市の接種対象の高齢者・基礎疾患のある人・16歳以上の市民毎にその人数を、お伺いします。また、それぞれの接種開始時期をいつ頃からと想定していますか。</p> <p>(2) 接種要領は集団接種、個別接種、巡回接種のどの要領で行いますか。また、接種会場はどこに設置されるのですか。</p> <p>(3) 接種申請は予約制と思いますが、どのような要領ですか。また、接種は地区ごとに指定日を設けで行うのですか。</p> <p>(4) 接種を担当する医師、看護師、その他のスタッフの構成と何個編成で行われるのですか。そして、1日の接種人数をどのくらいに想定していますか。</p> <p>2. パルスオキシメーターの貸与制度について</p> <p>パルスオキシメーター(血液中の酸素飽和濃度測定器)はコロナ感染者の重症化、肺疾患の重症化を予防するための、有用な機器であります。</p> <p>昨今、多くの自治体においても使用され、県内では500～600個、仙台市が200個程度、その他の自治体もある程度保有し、介護施設やコロナ自宅療養者、濃厚接触者などに貸出を行っています。</p> <p>この機器は指を入れることにより、酸素濃度と脈拍数が測定され、その数値によって、正常・要注意・心不全の疑いがあると判定できます。</p> <p>本市においても、コロナ対策や高齢者、呼吸系疾患患者等に軽易に利用でき、健康の一助として、貸与制度の設置について質問いたします。</p> <p>(1) 市民に無償で貸与する制度を設置してはいかがでしょうかですか。</p> <p>(2) 市民に広く周知し、手続きの簡便な制度設計に留意して、市民の健康を守るために、有効利用を図ってはいかがでしょうかですか。</p>					

質問順 12番	受付月日	2. 2	通告者	16番	昌浦泰巳
			発言時間	30分	種別 一問一答
<p>1. 子どもアドボカシーについて</p> <p>(1) 市は子どもアドボカシーをどのように理解していますか。</p> <p>(2) 今後、市は子どもの立場に立って行政サービスを展開なさるのですか。</p> <p>(3) 市職員の中からアドボケイトを養成すべきと思いますが、お考えはどうでしょうか。</p> <p>(4) 全国で一番の子どもアドボカシー先進市を目指すべきと思いますが、市長のお考えはいかがですか。</p>					

質問順 13番	受付月日	2. 10	通告者	14番	雨森修一
			発言時間	30分	種別 総括
<p>1. 被災地への職員派遣について</p> <p>3月11日で10年を迎える東日本大震災復興支援のため、全国各地の自治体より応援が寄せられました。派遣人数、期間は、異例の規模であり、2020年度まで全国で延べ9万7千人を超えることが総務省の集計で発表されました。人数、期間ともに過去の災害では例のない規模であり、被害の大きさを改めて知るところであります</p> <p>国は、3.11震災を教訓に被災地に職員を派遣する仕組みを制度化する考えのようであります。国内各地で災害が発生した際の迅速な職員派遣への取り組みについて多賀城市の考えを伺います。</p> <p>2. 震災の風化防止策について</p> <p>人間はよきにつけあしきにつけ「忘却する」「風化は避けられない」との学者の説もあります。3.11震災を風化させない為にもアイデアを凝らして後世に伝えることが重要だと思いますがいかがですか。</p>					

質問順 14番	受付月日 2.9	通告者 4番	鈴木新津男
		発言時間 30分	種別 一問一答
<p>1. 教育環境について</p> <p>(1) 現在各小学校間の児童数の差が大きく広がっています。山王小学区内では多数のミニ開発が進んでおり、さらに児童数の増加が見込まれ教室不足が懸念されると思います。</p> <p>教育機会の平等の観点から早期に改善すべきと考えますがいかがですか。</p> <p>(2) 政府は新年度より5年間をかけて35人学級に進めるとの閣議決定をしましたが、現時点での本市の対応を伺います。</p> <p>2. STEPの管理運営について</p> <p>(1) STEPは災害時の物資の受け入れ・荷捌き場として建設され、平時は、様々なイベントに使用できる施設として使用されています。しかしながら「利用料金が高い、減免を適用されても利用しづらい」との声が各団体からよせられています。</p> <p>利用料金を改定するとか、減免率を改定して市民のニーズにこたえてはいかがですか。</p> <p>(2) ドームに大きくSTEPと表示されています。しかし高齢者にはわかりづらく、昨年健康診断の時は、多くの受診者がとまどい何人もの方々が近くのコンビニにたずねていたようです。施設の名称「さんみらい多賀城イベントプラザ」と大きく表示されてはいかがでしょうか。</p>			